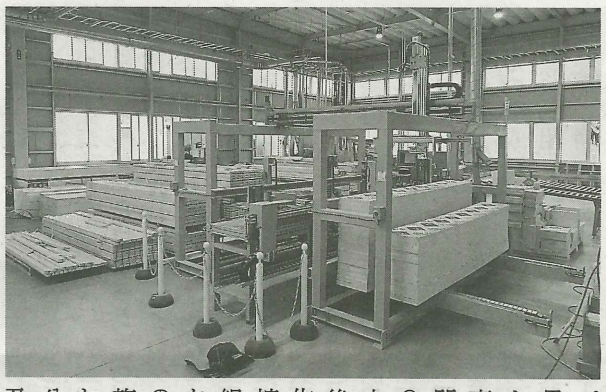
施主層を基準にコーチパネルを展開

浜北工場は一貫製造体制を確立

コーチ

コーチ（浜松市、大畑和也社長）は、高耐震木造軸組パネル「コーチパネル」を展開している。住宅のZEH標準化の流れや建築現場の職人不足、工法合理化などを背景にパネルへの関心は高い。同社は主力製造拠点である浜北工場を拡張し、新しい工場棟に加工ラインを整備した。今年2月末から本格的な増産体制に入り、コーチパネルの一貫製造体制を確立。生産能力は年間約3000棟分に拡大した。今後は人員強化とともに拡販に取り組み、カスタマー視点の下、福祉施設や店舗など非住宅分野へも普及を図る。


パネル製造拠点のコーチ浜北工場

コーチパネルは、柱と梁の内側に納める真壁タイプのオリジナル木軸パネルで、パネル用CADと連動する加工機械による部材（枠材・面材・断熱材）のカットや釘打ちで高精度・高品質化を安定的に実現している。木造軸組耐力壁として壁倍率4・8／4・7／4・2／4・1倍の国交省大臣認定を取得済みで、安定した高耐震・高断熱仕様の住宅の供給に貢献する。また、現場で発生する廃棄物の削減が図れるほか、職人不足問題に対応できることから工務店・ビルダー等での採用が増えている。

浜北工場では、木材加工工場（延床面積1364平方㍍）と倉庫棟（1246平方㍍）の2棟がさきごろ増設された。前者にはパネル製造ライン一式を導入し、これまで本社工場が行っていた木材の切削工程などを担当して効率化を図っていく。工務店・ビルダーを基準にして事業展開していく」と強調する。工務店・ビルダー等の差別化やブランディング戦略において高性能なコーチパネルを活用して貰うことで付加価値の高い家づくりを支援し、施主層へ「安心・安全」を届け続けたいとしている。今後も全国展開の中で地域密着型の工務店・ビルダー等に焦点を合わせて採用・普及に取り組んでいく。

蓄積した豊富な技術データ活用

信頼受ける精度の徹底

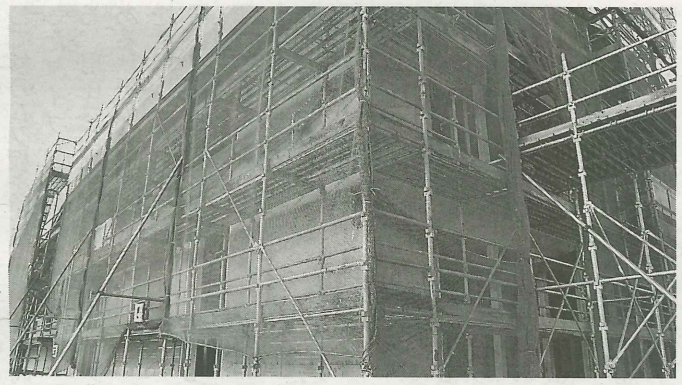
日本ノボパン工業

日本ノボパン工業（堺市、山本拓社長）は、構造用パーティクルボード（PB）「novopan STP Ⅱ」を生産販売している。採用棟数は累計で90万戸を超えた。主に住宅用パネル、耐力壁に利用され、新規採用も年々増えている。工場は堺工場（堺市）とつくば工場（茨城県つくば市）の2拠点で生産は24時間体制だ。

同社が強みとしているのはPB生産の技術とノウハウだ。例えば、PBに配管を通す場合など開口の必要が出てきたときは、実物の商品に穴を開けて安全評価の実験を行ってきた。これらのデータが蓄積されているため、設計時の課題や問い合わせにも回答しやすいという。

2022年度の販売量は約12万5000㌧。在来工法、2×4工法仕様のほか、ハウスメーカーからの特殊サイズなど細かな注文に対応する。多用途に対応する一方で、釘打ちピッチの種類を絞ることで取り扱いやすさにも気を配っている。JIS規格にのっとり反りや狂いがない高い寸法精度は当たり前だが、これを徹底することでユーザーからも安心して使える製品として信頼を得ている。最近は戸建て住宅だけでなく用途拡大に向けて木造マンションにも採用できないかと注目が集まっている。

公共建築物の木造化が進んでいることから非住宅物件への採用にも視野に入れている。壁と性能表示が統一されたため、設計図書の変更が容易になったことなどを要因に挙げる。


novopan STPⅡを使った現場

文教施設や老健施設など2～3階建ての小・中規模物件には、職人不足や省施工化への対策としても貢献を期待する。

また、18年の告示仕様によっても採用が広がった経緯がある。軸組工法壁倍率が2・5で合板耐力向けて情報収集も進めている。設計士から相談が寄せられており、利用に向けた共同開発とノウハウだ。例えば、PBに配管を通す場合など開口の必要が出てきたときは、実物の商品に穴を開けて安全評価の実験を行ってきた。これらのデータが蓄積されているため、設計時の課題や問い合わせにも回答しやすいという。

2022年度の販売量は約12万5000㌧。在来工法、2×4工法仕様のほか、ハウスメーカーからの特殊サイズなど細かな注文に対応する。多用途に対応する一方で、釘打ちピッチの種類を絞ることで取り扱いやすさにも気を配っている。JIS規格にのっとり反りや狂いがない高い寸法精度は当たり前だが、これを徹底することでユーザーからも安心して使える製品として信頼を得ている。最近は戸建て住宅だけでなく用途拡大に向けて木造マンションにも採用できないかと注目が集まっている。

公共建築物の木造化が進んでいることから非住宅物件への採用にも視野に入れている。壁と性能表示が統一されたため、設計図書の変更が容易になったことなどを要因に挙げる。

省施工・高品質のネオスマートパネル

工場で断熱材や窓サッシを取付け

兼希工業、セブン工業、都築木材、ナカザワ建販

サッシ断熱材付き壁パネル「NEO SM ART PANEL（ネオスマートパネル）」は、兼希工業（群馬県伊勢崎市、細渕敦社長）とセブン工業（岐阜県美濃加茂市、木下浩一社長）が共同で開発した。その後、都築木材（長野県伊那市、都築寛明社長）とナカザワ建販（大阪府和泉市、中澤秀紀社長）の2社が新たに業務提携会社として参画し、全国展開を進めている。4社ではネオスマートパネル（NSP）を理解したパネル製造設備を所持する会社を対象に必要に応じて業務提携工場を今後も増やす考えだ。

NSPは、面材と枠材、断熱材からなる従来の「断熱材付き壁パネル（通常タイプ）」に、サッシを工場で取り付け「サッシ断熱材付き壁パネル」として進化させた。特徴は、現場で大きな作業負担となる断熱材や窓サッシの取り付けを工場で行い、現場へと運ばれるため、省施工と高品質を両立している点だ。

パネルサイズは、現場での取り回しの良さを考え最大幅1820㍉とし、サッシの干渉などによる破損を防ぐ専用の鋼製ラックを使い、平積みを可能としている。2階建て、35坪程度の木造住宅の場合であれば、壁パネルで4㌧車2台分。トラックの車幅に収まるサイズのパネルとすることで積載効率を高めることが可能だ。

また、在来軸組工法の工期は土台敷きから雨仕舞いまで約12日かかっていた工程が、NSPを使用することで、1日で終わらせることができ、省施工化による工期の大幅な短縮が可能だ。面材は、パーティクルボード、MDF、石膏ボード（タイガーEXハイパー）、針葉樹合板などに対応し、断熱材には繊維系から発泡系まで様々な製品に対応するなど顧客の要望に応じている。

現在、4社の受注見込みは年間で80～90棟の規模となっており、早期に年間100棟にすることが目標だ。また、ナカザワ建販は7月13日に奈良県大和郡山市の分譲現場で、NSPによる在来軸組工法と2×4工法の2棟同時施工を公開し、業界関係者の関心を集めた。


ナカザワ建販が奈良県大和郡山市の分譲現場でNSPの施工を行った



兼希工業
〒372-0022 群馬県伊勢崎市日乃出町1038-38
TEL 0270-30-5800
ナカザワ建販
〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野4-3-20
TEL 0725-30-3500
セブン工業
〒505-0016 岐阜県美濃加茂市牧野1006
TEL 0574-28-7800
都築木材
〒390-0852 長野県松本市島立821-1
TEL 0263-88-6035



KOCHI コーチ株式会社
本　社　静岡県浜松市天竜区春野町宮川1879
電話053-985-0311　FAX053-985-0315
本社工場　電話053-985-0313　FAX053-985-1661
浜北工場　電話053-580-0111　FAX053-580-0112